**10月号の主な内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 2 | 伝統工芸の振興を目指して地域おこし協力隊が始動しました市長コラム 天地人 |
| 4 | 大崎耕土の農業を世界農業遺産に認定申請 |
| 6 | 芸術の秋華やぐ　市民文化祭開催 |
| 7 | 市職員の人数・給与などの状況 |
| 8 | 十年物語　～おおさき人の軌跡～大崎市スポーツ推進委員協議会会長 千坂善悦さん大崎市文化協会会長 手代木亮一さん |
| 9 | つながる・むすぶ・つむぐ 姉妹都市のきずな |
| 10 | 市政トピックス　9月の主な出来事 |
| 11 | 地域発！お・ら・ほ・の・ま・ち |
| 12 | オオサキプレイガイド |
| 16 | 第2次大崎市総合計画等市民説明懇談会を実施します　ほか |
| 20 | 今月のお知らせ |
| 30 | 子育て支援情報 |
| 31 | 育児相談・乳幼児健診 |
| 32 | 休日当番医　ほか |

**今月の表紙**

岩出山の秋を彩る「第53回政宗公まつり」が、９月10日・11日の２日間にわたり開催されました。昨年は、9月11日に市内を襲った豪雨災害により、史上初めての中止となってしまいましたが、今年はその分を取り戻すかのように新たな企画も取り入れ、両日あわせ6万5千もの人で、大変な賑わいとなりました。

　10日の宵まつりでは、特別企画「第1回コスプレ世界

大会」が新たに開催されました。参加者自身が手づくりし、細部までこだわった自慢の甲冑を披露し、本物とうほどの出来栄えに、会場から大きな拍手が送られました。

　翌11日の本まつりでは、「伊達武者行列」が行われました。行列がスタートすると、それまで降り続いていた雨がピタリと止み、天の味方も得て、勇壮できらびやかな戦国絵巻が見事によみがえりました。

写真：第１回甲冑コスプレ世界大会　優勝・さん　甲冑名「かぶき者」

**パタ崎さんのひと口メモ**

●大崎市に力強い仲間！地域おこし協力隊

問合せ 観光交流課 電話23-7097

みんなは「地域おこし協力隊」って知ってるかな？高齢化や人口が減って、いろいろな課題を抱える自治体が、地域づくりに意欲のある人に移住してもらい、課題解決を手伝ってもらう制度なんだ。

　９月14日から、大崎市にも２人の地域おこし協力隊員が来てくれたんだよ。

　国指定の伝統的工芸品「鳴子漆器」の伝統技術を絶やさないために、鳴子温泉地域に住んでもらいながら、技術を身につけることが２人の隊員の主な仕事なんだ。

　そのほかにも、大崎市の新たな魅力を見つけだして、全国にＰＲする役割もあるんだって。

　はじめのうちは、鳴子温泉地域を中心に活動してもらうんだけど、そのうち、みんなの地域のイベントや活動にも参加するので、その時はあたたかく迎えてあげてね。

　２人の隊員の紹介は、次のページを見てみてネ。

**伝統工芸の振興を目指して地域おこし協力隊が始動しました**

市では、後継者不足が進む伝統工芸の技術を身につけ、これからの伝統工芸振興において活躍してもらう人材を「地域おこし協力隊」として全国から募集しました。

　５人の応募者が面接に進み、選考の結果、廣澤明彦さん（35歳・埼玉県出身）と佐藤匠太さん（34歳・仙台市出身）を採用することに決め、９月14日、地域おこし協力隊の辞令交付式を行いました。

　二人は、鳴子温泉地域内に住みながら、鳴子漆器職人のさんの下で、製作技術や流通・販売などについて学び、いずれは独立を目指します。

　また、情報発信や他のものづくりとの連携や協働の可能性を探るほか、市内で行われる地域行事にも参加します。

　任期は年度ごとに更新し、最長で、平成31年３月31日までとなります。任期中の毎年３月には、活動報告会も行われる予定です。

　大崎市第１号の地域おこし協力隊として、新たな一歩を踏み出した廣澤さんと佐藤さんに、今後の抱負を聞きました。

●地域おこし協力隊員　 さん（埼玉県出身）

ずっと興味があった伝統工芸に携われるチャンスだと思い応募しました。まずは技術をしっかりと身に着け、いずれは世界に発信できるような鳴子漆器の職人になりたいです。任期は３年とあっという間ですが、これからたくさんお世話になる大崎市の皆さんに、いつしか恩返しができるよう、長い目で、しっかり取り組んでいきたいと思います。

●地域おこし協力隊員　 さん（仙台市出身）

伝統工芸や民芸品などの収集を趣味で行っていくうちに、いつか、その道に携わりたいという思いを強くしてきました。また、伝統や技術が失われつつあることも知っていましたので、今回の募集が、自分自身、最後のチャンスと応募しました。鳴子漆器の技術や知識の習得はもちろん、地域の皆さんと一緒にまちづくりにも力を注ぎたいと思います。

**市長コラム　天地人**

●大崎地域の農業を世界遺産へ!!

近年、世界遺産の話題を耳にすることが多くありますが、農業分野には「世界農業遺産」があります。国連食糧農業機関（ＦＡＯ）が２００２年に開始したプログラムです。

　ユネスコの世界遺産は、有形の文化遺産と自然遺産の保護・保存を目的にしていますが、ＦＡＯの世界農業遺産は、無形の農業システムの保全を目的としています。

　世界では15カ国36地域、日本では８地域が認定されています。

　９月26日、日本の窓口である農林水産省に大崎地域の世界農業遺産認定申請を提出してきました。

　申請タイトルは「大崎耕土の巧みな水管理による水田農業システム」です。

　大崎地域は、母なる江合川、鳴瀬川に抱かれた水田農業地帯ですが、かつては、冷害や水害が頻発し、「三年一作」と語り継がれる冷害常習地帯でもありました。

　先人は血のにじむような努力で、、や、ため池、用水網などを整備し、技術革新を繰り返しながら、「巧みな水管理」による、豊饒の大地を創り上げてきました。

　その営みと暮らしからは、発酵食や餅といった食文化、などの相互扶助、湯治文化などが育まれました。

　里山にはホタルや赤とんぼが飛び交い、多い年には、約10万羽ものマガンが飛来する生物多様性が保持され、農業と生き物との共存共栄が図られています。

　大崎耕土こそ、ＦＡＯが目指す世界農業遺産の最適地です。

　「大崎ブランド」に自信と誇りを持って、世界に発信していく新たなスタートにしていきましょう。